公益社団法人日本包装技術協会
2026年度活動方針

わが国を取り巻く情勢として，国内においては燃料費等の高騰や長引く円安基調により物価高が続き，個人消費の伸びが抑えられている。また，企業においては人手不足や人件費の高騰により事業拡大が困難な状況が続いている。

国際情勢においても，米・中・欧の政策次第により，わが国経済に多大なる影響を与えかねない駆け引きが大陸間で展開されている。

わが国包装界を取り巻く環境は上述により厳しい環境下にあることに加え，サステナブル社会の構築に向け，一層の改善合理化，新技術の開発，垣根を超えた情報共有が求められている。

当会ではこれらの状況を踏まえ，環境問題など国内外の最新情報を収集し発信するとともに，新たな包装教育の場を創造し，わが国包装技術の向上と企業を支える包装人材の安定確保を目指す必要がある。これらにより，次の事項を重点とした諸活動を展開する。

１．国内外包装情報の収集・発信，並びに包装人材の育成

国内における包装の改善・合理化事例，環境問題動向・新技術の紹介，更には海外包装事情等，当会の国内外ネットワークを駆使し，会員企業に対し情報提供を行う。

また，包装技術の継承，発展に繋げるための包装人材育成活動を当会本部・支部において断続的に展開する。

２．サステナブル社会へ向け，業種を超えた共通認識を高める

包装におけるメーカー，ユーザーにより構成される当会の特性を活かし，包装の使用者であるブランドオーナー等の業界ユーザーと，リサイクルに取り組む企業・団体等との情報の共有化を図るために，独自の講習会・勉強等を開催し理解を深める活動を行う。

３．包装産業への就労機会の創出と大学への「包装学科・包装学専攻」新設に向けての取り組み

国内労働人口の減少が続く中，包装業界においても人手不足の問題が企業の成長に影を落としている。特に若い世代に包装業界そのものが浸透していないこともあり，若い力の確保が困難となっている。このことを踏まえ，日本包装学会を中心とした関係団体・機関と協力のもと，諸外国では普通となっている国内大学への「包装学科・包装学専攻」新設に向けての取り組みを行うとともに，消費者への包装業界認識向上へと繋げて行く。

４．継続的な包装標準化への取り組み

国内包装業界の健全な発展に向け，JIS 規格の制定・改訂作業を会員代表企業並びに各界専門家の協力を仰ぎ継続的に審議を行う。

また，ISO においては，ISO/TC122（包装）の議長及び国際幹事国として国内意見の取り纏め，並びに ISO 事務局への提案のほか，他国からの提案へのコメントを確実に行い，国際標準化に向けた取り組みを行う。

５．TOKYO PACK 2026開催による最高レベルの包装技術の発信

今回で31回目の開催となる TOKYO PACK（東京国際包装展）は，展示会場の大規模改修工事により，展示ホールを１ホール減らしての開催となるが，１社でも多くの出展希望を可能とし，また，併催企画行事等の充実により，出展社並びに来場者の満足度を高め，世界に向けて TOKYO PACK の存在感をアピールして行く。